

## 視察・見学会報告書

訪問先：国交省・国土技術政策総合研究所（国総研）：両角課長  
及び

（独立行政法人）土木研究所（土研）：佐藤主査

日時：2008 年（平成 20 年）7 月 9 日

場所：茨城県つくば市

参加者：総計 14 名（社）建設機械化協会（JCMA）

### 基礎工事用機械技術委員会

委員長：	青柳 隼夫	- (株)竹中工務店
副委員長：	村手 徳夫	- 日本車輛製造(株)
委員	： 網代 秀一	- 日立住友重機械建機クレーン(株)
	： 森 孝	- (株)アイチコーポレーション
	： 小滝 裕	- 鹿島建設(株)
	： 伊藤 孝明	- アボロンシステム(株)
	： 久喜 正博	- 東邦地下工機(株)
	： 榎本 英夫	- 日本国土開発(株)
	： 山口 和秀	- 三井住友建設(株)
	： 垂 敦	- 三井住友建設(株)
幹事	： 田伏 辰夫	- コベルコ クレーン(株)
副幹事	： 浜野 衛	- 三和機材(株)
事務局	： 浅野 邦彦	- （社）建設機械化協会（JCMA）
	南 秀次	- （社）建設機械化協会（JCMA）

訪問目的：日本における基礎工事用機械の技術・製品の変遷の理解を深める為、最新の研究設備を有する国交省並びに傘下の研究・実験設備を視察する。

視察内容：

ITS 研究センター（ITS 研究室）  
水質実験施設（下水道研究室）  
河川水利実験施設（河川研究室）  
試験走路（道路研究室）

### 訪問概記

当日は、両研究所の格別の配慮を頂き、諸実験施設の視察をする事ができた。

施設の全体説明を頂いたが、国家土木建設インフラに関わる多種多様な実験設備を有し、今の日本の繁栄の源流がここにあり！との認識を新たにした次第。

午前中の ITS 研究センター棟では、日本のモータリゼーションの陰の部分としての事故を回避し、国民の安全を支える為に IT を駆使した最新技術により一層の安全の確保に向けた研究活動、

都市と自然の安全な共生に向けた地道な研究設備；

最近ますます都市に暮らす人々が災害に遭遇するリスクが増加している。特に、突発的な集中豪雨による下水道の暴れ等、を科学的に検証できる実験設備を視察したが、自然のパワーがいとも簡単に人工的構造物を破壊し、予想外・想定外の危害をヒトに加えるかを目の当りにし、一層の土木技術の進化・発展の必要性を感じた。

午後、自然との共生、まさに、共生か！？ 水力発電ダムモデルと河川の崩壊の理論と護岸の重要性を示すモデルを視察。温暖化？現象による昨今の世界各地で発生している洪水等の自然災害を防ぐ方法への鍵を見出すべく、国を挙げての研究・実験が為されている事は感動的であった。

（総合所感）

まさに国家百年の計として国を挙げての国家インフラ建設を、“安全と信頼”できる技術と製品により達成してきた日本に実力が確認できた。また、そこで真摯に地道に活動される研究者群を眼の当りにし、“日本の源流”の全てがここにあり、との感を新たにした次第。まさに、目から鱗な、視察・見学会であった！

惜しむらくは、これらの設備に加え、国交省が行なっている研究・施策、等々、をもっと世間に発表なり、宣伝行動を増やし、国民に知らしめ、土木建設の重要性を国民に親しんでもらえる活動をもっと進めるべきではないか、との印象を新たにした。

また、日本が今日まで蓄積してきた土木建設技術力の高さを実感した。

これらの技術を国家レベルで、国家間で、相互に融通できる関係を政府間で構築できないものか？ 日本が、再度、世界レベルで感謝される事になれる最後のチャンスでは無いか？ 自然災害で苦しむ国々を救えるのでは？日本の土木技術と施工技術を一体とし、日本政府が保証しそれらの国々の国家建設に協力する事で可能となるのでは？との思いが過ぎったのは筆者のみであろうか？

最後になりましたが、両研究所の皆様には、御多忙の中を大変貴重な機会と時間を頂きました。本当に有り難うございました。

以上

